

東京局連会報

東京国税局管内納税貯蓄組合連合会

第11号

令和 8 年
(2026年) 1 月



目次

東京局連近藤忠夫会長挨拶……………	2	<神奈川県> 黒岩祐治県知事祝辞……………	8
東京国税局小宮敦史局長祝辞……………	3	神奈川県連の活動……………	9
<東京都> 小池百合子都知事祝辞……………	4	<山梨県> 長崎幸太郎県知事祝辞……………	10
東総連の活動……………	5	山梨県総連の活動……………	11
<千葉県> 熊谷俊人県知事祝辞……………	6	東京局連の取り組み……………	12
千葉県総連の活動……………	7	東京局連副会長挨拶……………	14

会長挨拶

東京国税局管内納税貯蓄組合連合会 会長 ■ 近 藤 忠 夫



令和8年の新しい年を迎え、謹んで新春のお慶びを申し上げます。

会員各位並びに関係者各位におかれましては、日頃から納税貯蓄組合の活動に多大なるご支援とご協力を賜り厚くお礼を申し上げます。

振り返れば、昨年も世界情勢においては激動とも言うべき大きな変化が続きました。国内でも、8月から9月にかけて九州や静岡を始めとする14の道府県で大雨による被害が発生しました。また、11月に大分市で発生した記録的な大規模火災は記憶に新しいところです。さらに、年末に東北地方を襲った大きな地震には東日本大震災の記憶を呼び覚まさせられました。

そうした中でも、東京国税局管内納税貯蓄組合連合会では多くの支援者のご協力を頂きながら、定時総会や作文審査会などの事業を予定どおり実施することが出来ました。これもひとえに、納税貯蓄組合の活動を支えていただいております地区（署）連の役員や会員の皆様、並びに国・都県・市区町村などの行政機関の皆様、さらには連携する納税協力団体の皆様のご支援の賜物と改めて深く感謝申し上げます次第です。

明くる令和8年の干支は、丙午（ヒノエ・ウマ）です。丙午と聞くと、日本では余り良い印象を持たない方も多いと思われます。しかし、一方で「丙」は十干（ジツカン）の3番目で太陽の光を表し、明るさ、情熱、強い意志、行動力を象徴すると言われています。また、他方の「午」は十二支の7番目で、力強さ、前進、躍動感などを象徴しており、古より人間と共に生きてきた独立心と社交性を備えた動物でもあります。これらのことから、丙午は、新たな挑戦や変革のエネルギーに満ちた年という見方をすることも出来ると思われれます。

令和3年、東京国税局や同局管内の金融機関及び各業界団体などと共に始めたキャッシュレス納付の普及に向けた取組みは5年目を迎える息の長い事業となりました。東京局連では、本年4月に東京国税局管内の東京、神奈川、千葉、山梨の納税貯蓄組合が一堂に会し、団体の創立50周年を祝うと共に、心新たにキャッシュレス納付の普及・推進を宣言する記念式典を執り行うこととなりました。私たちは、この取組みを契機に今後も様々な機会を捉えてクレジットカードやインターネット・バンキングなどの多様な手段によるキャッシュレス納付の普及・啓発に取組み、デジタル社会の更なる深化に貢献してまいります。

先が見えにくい情勢は今後も続くと思われれますが、今年一年の当会の発展と会員の皆様、並びに当会を支えて下さる多くの皆様のご健勝とご繁栄を祈念し、年頭のご挨拶とさせていただきます。

東京国税局長祝辞

東京国税局長 ■ 小 宮 敦 史



新年あけましておめでとうございます。

令和8年の年頭に当たり謹んでお祝いを申し上げます。

東京国税局管内納税貯蓄組合連合会の皆様には、平素から税務行政に対しまして、格別の御理解と御協力を賜り、厚く御礼申し上げますとともに、本年、貴連合会が創立50周年という記念の年を迎えられますことを、心よりお慶び申し上げます。

貴連合会におかれましては、各会で役員の皆様が率先してキャッシュレス納付の普及に向けて取り組んでいただいているところです。

また、全国納税貯蓄組合連合会と国税庁との共催事業である「中学生の『税についての作文』」事業は、59回目となった昨年、東京国税局管内の中学校1,267校から10万6千編もの多数の応募がありました。これもひとえに、納税貯蓄組合の皆様方が、次代を担う中学生に向けての租税教育の重要性を認識され、地道に募集活動を継続されてきたことの成果であります。当局といたしましても、非常に重要な事業であると考えており、これまでの皆様の御尽力に対しまして、改めまして深く感謝申し上げます。

引き続き、皆様との連携・協調を密にしていこうとしておりますので、今後とも税務行政に対しまして、より一層の御理解と御協力のほどよろしくお願い申し上げます。

さて、私たち国税組織に課せられた使命は、国の活動を支える歳入を確保するために、「納税者の自発的な納税義務の履行を適正かつ円滑に実現する」ことです。これを国民の皆様からの理解と信頼の下、果たしていかなければなりません。

そのためには、適正かつ公平な課税徴収に努め、悪質な納税者には厳正な態度で臨むとともに、税務行政のDXを積極的に推進し、納税者利便の向上に向けた様々な取組を進める必要があります。

そうした中、間もなく確定申告の時期を迎えますが、マイナンバーカードを利用したスマートフォンによる申告に当たっては、マイナポータル連携を御利用いただくことで、給与所得の源泉徴収票の情報のほか、医療費やふるさと納税など申告に必要な各種証明書等のデータが、確定申告書へ自動入力されるなど利便性がさらに向上しています。

さらに、令和8年1月から、Android端末に加え、iPhoneにおいてもスマホ用電子証明書を御利用いただくことで、申告手続の過程で、マイナンバーカードをスマートフォンにかざして読み取る必要がなくなり、今まで以上にスムーズにスマホで申告できるようになりました。

マイナンバーカードを利用したスマートフォンによる申告の利便性は年々向上しておりますので、是非、御自宅等からe-Taxを御利用ください。

なお、御利用の際にはマイナンバーカード及び電子証明書の有効期限を確認していただき、更新する必要がある場合には、確定申告時期に集中しないよう、早期に手続きを行っていただくようお願いします。

納付の際は、振替納税をはじめとした、キャッシュレス納付が大変便利となっておりますのでぜひ御利用いただきますようお願いいたします。

最後になりますが、新しい年が皆様にとってますます御多幸でありますよう心から祈念して、新年の挨拶とさせていただきます。

東京都知事祝辞

東京都知事 ■ 小池百合子



明けましておめでとうございます。令和8年の年頭に当たり、謹んでお祝いを申し上げます。近藤会長をはじめ、東京国税局管内納税貯蓄組合連合会の皆様には、キャッシュレス納税の普及・拡大に向けたPR活動をはじめ、税の知識や納税思想の普及・啓発、「税についての作文」の募集活動を通じた租税教育の推進など、税務行政の進展に格別のご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

気候変動の深刻化により、命を脅かすほどの危険な暑さや、八丈島・青ヶ島に被害をもたらした記録的な豪雨など、自然災害の様相は明らかに変わりつつあります。また、テクノロジーは日進月歩で、AIや半導体など、新たな産業分野を巡る世界の動きは加速するばかりです。こうした激動の只中に置かれた今こそ、安全・安心を守り、産業を伸ばし、何より「人」を輝かせることで、持続的成長に繋げていくことが必要です。日本を牽引する成長のエンジンとしての覚悟と使命感も胸に、東京のため、都民のための政策を推し進めてまいります。

経済活動や「人」の活躍の土台となるのが、都市のレジリエンスです。地震や風水害など、あらゆるリスクを想定した都市の強靱化を推し進めるとともに、長引く物価高騰を踏まえた対策により、都民生活や事業者の活動をしっかりと支えていきます。都民の命と生活を守る「首都防衛」を徹底的に進めてまいります。

また、新たな経済成長の波を起こす産業への投資、イノベーションの創出など、あらゆる切り口から、東京が持つポテンシャルを最大限に活かしてまいります。特に、観光産業においては、各エリアでのナイトタイムの充実に向けた動きを力強く後押しするなど、都市の魅力に更なる彩を加えていきます。同時に、日本のマナーや習慣について外国人旅行者に正確な理解を促すなど、観光産業と地域生活の両立にも注力いたします。

そして、社会に急速に浸透するAIについては、先般策定した「東京都AI戦略」を基に、より良い政策実現を加速する中核技術として、積極活用していきます。都民の皆様が便利になったと「実感できる」クオリティ・オブ・サービスの向上を図るとともに、徹底したDXにより、都民が心豊かに過ごせる「手取り時間」を創出してまいります。

こうした多岐に渡る施策を着実に推し進めていくためには、強靱な財政基盤が不可欠です。その根幹をなすのは、納税者の皆様からの都税収入です。東京都はこれからも、適正かつ公平な税務行政の実現に不断に取り組み、納税者の皆様の更なる信頼と協力が得られるよう努めてまいります。

その中で、制度創設から20年以上が経過した宿泊税については、税を取り巻く環境変化のほか、ごみ問題や混雑など観光を巡る新たな行政ニーズ等も念頭に、使い道や課税のあり方に関する見直しの素案を公表いたしました。今後、都民の皆様の意見も踏まえながら、条例の改正案を取りまとめてまいります。

結びに、皆様の一層のお力添えをお願い申し上げるとともに、貴連合会の益々のご発展と、組合員の皆様のご健勝、ご多幸を心より祈念し、また、この一年が皆様にとって希望あふれる年となることを願い、新年のご挨拶といたします。

東京納税貯蓄組合総連合会の活動

第69回東総連定期総会(6月16日/月): 上野精養軒



東総連近藤会長から今後の事業計画について、1デジタル社会への対応について、2キャッシュレス納税の推進について、3足腰の強化についての三点を柱に、一層の努力を傾注していくとの決議が表明されました。総会後には懇親会を開催し、小池東京都知事をはじめ来賓の方々からご祝辞をいただき、会員同士の交流も図られ、和やかな時間となりました。

青年部・女性部合同研修会(8月27日/水): 上野精養軒

研修会では、東京都主税局徴収部の二宮卓也滞納整理対策担当課長をお招きし、「東京都におけるキャッシュレス納付の取組について」をテーマにご講演いただきました。

本テーマは参加者の関心も高く、また講師の分かりやすい説明も相まって、理解を一層深めることができ、大変有意義な講演会となりました。



東総連作文審査会(10月3日/金): 上野精養軒

10月3日(金)、上野精養軒において東総連の作文審査会が行われました。67名の審査委員に集ってもらい、各地区連合会の応募作文の中から選ばれた191編が審査対象となりました。

地区連合会及び関係者の皆様方のこれまでの献身的な取り組みに心から感謝申し上げます。



千葉県知事祝辞

千葉県知事 ■ 熊谷 俊 人



明けましておめでとうございます。令和8年の年頭に当たり、謹んでお祝いを申し上げます。

東京国税局管内納税貯蓄組合連合会の皆様におかれましては、キャッシュレス納付の利用促進に向けたPR活動、行政サービスのプッシュ型への変革を見据えた様々な申請手続きのデジタル化、税の知識や納税思想の普及・啓発、中学生の「税についての作文」の募集事業などを通じ、納税意識の高揚のために多大なる御協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

本県では、昨年10月に、重点的に取り組む政策・施策を取りまとめた「千葉県総合計画 ～千葉の未来をともに創る～」を策定いたしました。

本計画に基づき、頻発化・激甚化する災害や人口減少社会の到来など、喫緊の課題に対応し、県民の命とくらしを守るとともに、誰もが社会に参加・活躍し、豊かなライフスタイルを実現できる千葉県を目指してまいります。

安全・安心の確立は、県政の土台となるものです。本県の半島という地理的特性や過去の災害の経験を踏まえ、孤立集落対策や良好な避難環境の確保、地域コミュニティの防災力強化に取り組んでおります。今後も、市町村や民間事業者、災害ボランティア等との連携を強化するほか、防災分野におけるDXを一層推進するなど、「防災県・千葉」を確立してまいります。

また、企業の立地を一層促進するため、県の魅力のPRや企業ニーズに応じた補助制度の柔軟な見直し等により、企業誘致を推進してまいります。さらに、昨年新たに県全域が指定された国家戦略特区の制度を幅広い分野において活用するなど、世界をリードする産業拠点の形成や新事業の創出を図ってまいります。

県内経済の持続的な発展に向け、物価高騰や人手不足、米国の関税措置等の影響を受ける中小企業に対する適切な価格転嫁の推進、デジタル技術導入のための伴走支援や従業員の奨学金返還支援などに取り組んでまいります。

観光については、地域資源を活用した魅力ある観光地づくりに取り組むほか、インバウンド客の誘致を促進します。また、宿泊税については、宿泊事業者や市町村の御意見を踏まえ、導入に向けた検討を進めてまいります。

デジタル化の進展は、活力ある地域社会の実現につながります。そのため、県では、令和10年度までに行政手続の全利用件数のうち98%以上でオンラインによる手続を可能とするなど、県民・事業者の誰もが利便性を享受できるスマート自治体の実現を図るとともに、社会全体のDXを進めてまいります。

社会・経済情勢が大きく変化する中、これらの施策を展開していくためには、自主財源の確保が必要不可欠となります。今後とも、納税者の皆様の信頼と協力が得られるよう、常に適正かつ公平な税務行政を推進してまいりますので、皆様の一層のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

結びに、貴連合会、傘下納税貯蓄組合のますますの御発展と組合員の皆様の御健勝を心からお祈り申し上げまして、新年のご挨拶といたします。

千葉県納税貯蓄組合総連合会の活動

木更津税務署管内納税貯蓄組合連合会 令和7年12月18日（木）「一日税務署長」開催

令和7年12月18日、本年度の中学生の「税についての作文」で県内初の文部科学大臣賞を受賞した佐藤こはるさん（中一）と木更津税務署長賞を受賞した山口 潤さん（中三）の2人が木更津税務署で一日税務署長を務めました。委嘱状を交付された後、署内視察、緊張の中、多くの職員の前で各々受賞作文を読み上げました。貴重な経験になったと思います。



木更津税務署長・納連会長さんたちと



佐藤こはる 一日税務署長



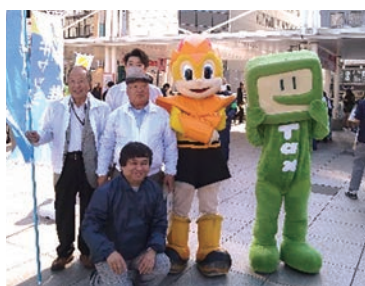
山口 潤 一日税務署長

柏税務署管内納税貯蓄組合連合会 令和7年11月16日（日）「税を考える週間」

納税広報キャンペーン、柏駅前スカイデッキにおいて、啓発グッズの配布、スマホでキャッシュレス等の説明や講習を行ないました。



集合写真



グッズ配布前



キャッシュレス説明・講習

千葉東税務署管内納税貯蓄組合連合会 中学生の「税についての作文」表彰式・作品展示

令和7年11月11日（火）納税表彰式に続いて「税の作品表彰式」を挙行、中学生の『税についての作文』、『税の標語』、『税に関する絵はがきコンクール』における優秀作品の表彰を行いました。税についての作文については、今年度は千葉東税務署管内の中学校24校より1,821編の応募をいただきました。

尚、優秀作品は管内の各施設で展示し、多くの市民に読んでいただいています。



R07 納税表彰式



千葉市役所1階ロビー展示

神奈川県知事祝辞

神奈川県知事 ■ 黒 岩 祐 治



あけましておめでとうございます。令和8年の年頭に当たりまして謹んでお祝いを申し上げます。

東京国税局管内納税貯蓄組合連合会の皆さまにおかれましては、日ごろから、キャッシュレス納付の普及促進に向けた活動をはじめ、本県の税務行政の推進に格別なご理解とご協力を賜り、深く感謝いたします。また、中学生の「税についての作文」の募集事業などを通じて、納税意識の向上のために多大なるご尽力をいただき、厚くお礼を申し上げます。

社会環境が大きく変化する中で、性別や年齢、障害の状態、国籍などにかかわらず、異なる価値観や背景を持つ人々が互いに認め合い、支え合いながら暮らすことのできる「共生社会」の実現が求められています。

今年は、津久井やまゆり園事件から10年の節目の年です。あのような大変痛ましい事件が二度と繰り返されないよう、県は、「ともに生きる社会」の実現を目指してさまざまな場面で「ともに生きる社会かながわ憲章」の理念を県民の皆様にお伝えし、全庁を挙げてこの問題に向き合いながら、取組を進めてきました。そして今、われわれは新たなスタートを切ろうとしています。福祉の現場に科学の視点を取り入れ、当事者目線に立ったやさしくあたたかい、再現性のある支援を目指し、福祉を変えるフロントランナーとなるべく、今年4月に県立福祉機構を設立します。

障害者支援施設では、強度行動障害の方は暴れて危険だから部屋に閉じ込めておく、といったことが当たり前のように行われてきました。そうではなく、なぜ暴れるのか、どういう気持ちなのか、一人ひとりの目線に立って、直面している困りごとを科学の視点により分析することで、自信を持って支援ができる現場を実現させていきます。障害当事者が地域の一員として役割を担い、誰もがその人らしく暮らすことのできる「地域共生社会」の実現を目指していきます。

さらに、グローバル化が進む中で、海外進出する県内企業の増加や外国籍県民の増加など、神奈川県と世界との結びつきはますます強まっています。

本県では、経済成長の著しいベトナムとの交流を進めてきました。昨年は9回目の「ベトナムフェスタ in 神奈川」を開催するとともに、ベトナムでは6回目の「KANAGAWA FESTIVAL in VIETNAM」を開催しました。このように、神奈川の魅力や強みを発信してきたことで文化的な交流とともに、経済的な交流も深まってきました。その結果、神奈川県に進出したベトナム企業は延べ22社となり、これまで継続的に交流を重ねてきた成果が確実に現れていると感じています。

また、2027年3月から9月にかけて、横浜市の旧上瀬谷通信施設において、国際園芸博覧会「GREEN×EXPO 2027」が開催されます。この博覧会は、1都3県で初めて開催される万博であり、国内外から多くの来場者が見込まれる国際的なイベントです。このようなイベントを通じて文化的、経済的な交流がさらに深まるよう取り組んでいきます。

このほか、人手不足が深刻化する中で、外国人労働者の活躍は欠かせないものとなっています。外国籍県民を含むすべての人が、国籍や文化の違いを超え、多様性を理解し、お互いに地域の一員として認め合い、活躍できる「多文化共生社会」の実現を推進していきます。

県民の皆様一人ひとりの「いのち」が輝くやさしい社会の実現を目指し、本年も全力を尽くしてまいります。

そのために取り組む各種施策には、県民の皆様からお預かりした貴重な県税が財源となります。

今後とも、電子申告やキャッシュレス納付の拡大により、納税者の利便性向上を図るとともに、納税者の信頼と協力が得られるよう、適正かつ公平な税務行政を推進してまいりますので、納税貯蓄組合の皆様におかれましても、一層のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

結びに、貴連合会、傘下納税貯蓄組合のますますのご発展を心より祈念いたしまして、年頭のあいさつとさせていただきます。

神奈川県納税貯蓄組合連合会の活動

令和7年の神奈川県納税貯蓄組合連合会の活動は、地区内18署連の各々の運動の集大成が、中学生の「税についての作文」事業でした。

最近の教育行政の大きな変化は、ギガスクール構想によるIT化です。紙ベースの教科書からデジタル端末を生徒全員が操作する時代となりました。先生方の働き方改革もあり、授業の効率化が叫ばれ、夏休みの宿題の位置づけにも変化が出てきました。中学校での税に関する授業を受けるタイミングが二学期になったり、夏休みの宿題としての「税についての作文」が、個人選択の対象となったりしてきているのです。残念ながら県内の「税についての作文」の応募が、昨年に比して学校数で10%、編数で5%程減りました。なんとか現状維持が出来ている状況です。

11月の税の週間には各地の納税表彰式等で中学生の「税についての作文」も表彰されました。神奈川県連では令和7年11月20日に県庁会議室に於いて表彰式を開催することが出来ました。

また、県連関係者から叙勲、財務大臣表彰、国税庁長官表彰（2名）等、普段の納税活動が評価され、晴れの受章（賞）となったのは喜ばしいことでした。

令和8年は、新たな時代に合ったデジタル化の推進を応援してゆきたいと考えます。高齢関係者からすれば、親子ならぬ親孫に接するごとく、中学生に税の作文を理解してもらい、納税意識の高揚に努める年としたいと考えます。



神奈川県庁に於ける、中学生の「税についての作文」表彰式 （2025.11.20）

山梨県知事祝辞

山梨県知事 ■ 長崎 幸太郎



新年明けましておめでとうございます。

東京国税局管内納税貯蓄組合連合会の皆様には、益々ご清栄のうちに令和8年の新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。また、平素から近藤会長はじめ会員の皆様におかれましては、納期内納税の推進にご協力を賜りますとともに、キャッシュレス納付の普及促進や租税教育の推進にも多大なご貢献をいただき、心から感謝申し上げます。

県では、「県民一人ひとりが豊かさを実感できる山梨の実現」を究極の目標に掲げ、県民の暮らしをあらゆる外的衝撃から守り抜く「ふるさと強靱化」と、交流を広げ新たな可能性を拓き、豊かさの元となる価値を創出する「『開の国』づくり」という二つの大きな柱のもと、幅広い分野で施策を展開しております。

しかし、昨今の物価高騰は、家計や事業活動などの県民生活に深刻な影響を及ぼしており、もはや短期的な対応だけでは十分と言えない状況であります。そこで、県民生活全般への抜本のかつ構造的な対応として「県民所得の着実な向上」を目指し、賃金水準の引き上げ、生産性の向上、労働参加率の向上という三要素を三位一体で強力に推し進めております。

また、将来にわたって県民所得を引き上げ、生活水準を守り高めていくため、少人数学級の拡充や国際交流によるグローバル人材の育成など、未来を担う人材育成にも力を注いでおります。

このような取り組みを着実な所得向上へと結びつけるには、人が能力を発揮できる産業の舞台と、その産業を支える成長の基盤を同時に整えることが重要です。

本県の成長戦略の核であるグリーン水素は、成長産業の基盤づくりにおいて大きな役割を担う存在になりつつあります。今後は、水素ビジネスの更なる拡大を図るとともに、水素市場を牽引するトップランナーとしてグリーン水素を核とする国際産業クラスターを形成し、世界の知と投資を呼び込み、県民所得を直接押し上げる強力な成長エンジンを築くべく戦略的に施策を展開して参ります。

また、産業基盤を支える交通インフラ整備についても、新山梨環状道路やスマートIC、富士トラム構想など、利便性と地域活性化を一体的に実現する地域内交通の充実を推進します。

こうした施策を着実に進める上で、財源となる税収の確保は不可欠であり、そのためには、県民の皆様の税に対する理解を深めるとともに、納税しやすい環境を整備することが必要であります。

そのため、納税者の利便性の向上及び社会全体のコスト削減などにつながるe L T A Xの積極的な利用を呼び掛け、所得税の源泉徴収や個人住民税の特別徴収における電子納税の推進に向けて、引き続き力を尽くして参ります。

今後も、納税者の皆様の信頼と期待に応えられるよう、公平・公正な税制運営に努めて参りますので、会員の皆様におかれましては、なお一層のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

結びに、貴連合会の益々のご発展と、会員の皆様のこの1年のご多幸を心から祈念申し上げまして、新年の挨拶といたします。

山梨県納税貯蓄組合総連合会の活動

山梨県納税貯蓄組合総連合会は、甲府・山梨・大月・鵜沢の4署(地区)連で構成されており、県下一斉の自動車税納期内納税啓発事業や事業所巡回啓発事業をはじめ、中学生の「税についての作文」募集事業の実施や、署(地区)連毎に特色ある会報を発行するなど様々な活動を行っています。

今回は大月税務署管内納税貯蓄組合連合会の活動を中心に紹介します。

関係民間団体共催事業参加 (10月26日:つる産業まつり)



大月税務署管内にある関係民間団体(6団体)共催事業の一つとして「つる産業まつり」に出店し、TAXクイズ、パーラビーズでマイナちゃんのキーホルダー作成、一億円の重さ体験などを通じてキャッシュレス納付のPR及び税に関するパンフレット配布を行いました

消費税完納キャンペーン (11月11日:上野原市商店街)



出発式



商店街で推進をおこなう松田署長と小俣会長

上野原市商店街で行われた消費税完納キャンペーンは、大月税務署松田署長、上野原市商工会一ノ宮会長にもご参加いただき、店舗を戸別訪問しパンフレットと花の種を配布しながら、キャッシュレス納付のご利用と、消費税期限内納付を呼びかけました。

中学生の税についての作文 (11月17日:ハイランドリゾートホテル)



作品披露



贈呈式

毎年、納税表彰式において受賞者の表彰並びに優秀作品の披露をおこなっています。今回は、東京国税局管内納税貯蓄組合連合会会長賞を受賞された生徒さんが作品を披露してくれました。

東京国税局管内納連の取り組み

1. 中学生の税についての作文

東京国税局管内納税貯蓄組合連合会では、国税局との共催による中学生の「税についての作文」を毎年度の中心的な事業として取り組んでいます。この事業は、昭和42年の開始以来、令和7年度で59回目を数えます。

応募数は、新型コロナの影響で激減した令和2年度から回復傾向にあります。令和2年と比べると今年度の応募校数は1.14倍、応募校数は1.24倍です。いずれも新型コロナ前の水準近くにまで回復しました。

令和7年10月、東京局連において作文の審査を行った結果、東京国税局長賞18編、東京局連会長賞36編、東京局連優秀賞100編、全納連上申作品32編を選出しました。

	年度	東京都	神奈川県	千葉県	山梨県	合計
応募数 (編)	令和2年度	53,864	12,073	17,481	2,658	86,076
	令和3年度	67,135	18,151	24,653	3,215	113,154
	令和4年度	68,042	18,241	26,083	3,594	115,960
	令和5年度	66,288	18,820	24,274	3,402	112,784
	令和6年度	67,162	16,621	21,489	3,505	108,777
	令和7年度	66,720	15,713	20,316	3,662	106,411
	前年度増減数	-442	-908	-1,173	157	-2,366
	前年度比	0.99	0.95	0.95	1.04	0.98
	令和2年度比	1.24	1.30	1.16	1.38	1.24
参加校数 (校)	令和2年度	605	181	259	67	1,112
	令和3年度	673	271	307	83	1,334
	令和4年度	677	274	307	81	1,339
	令和5年度	685	281	296	78	1,340
	令和6年度	678	270	285	75	1,308
	令和7年度	665	248	281	73	1,267
	前年度増減数	-13	-22	-4	-2	-41
	前年度比	0.98	0.92	0.99	0.97	0.97
	令和2年度比	1.10	1.37	1.08	1.09	1.14

2. 一日税務署長を83署で実施

(1) 概要

税についての作文で優秀な成績を収めた中学生が、東京国税局管内の税務署で「一日税務署長」を勤めました。この事業は、東京国税局管内納税貯蓄組合が平成28年度から東京国税局長のご賛同を得て始めたもので、令和7年度で10年目を数えます。

令和7年度の一日税務署長は、東京国税局管内の全84税務署中83署で実施されました。実施率は98%でした。昨年度に比べて5ポイントアップしています。こうした素晴らしい成果を上げることが出来たのも、管内各税務署の皆様の大きなご協力の賜物です。

都県別の実施率は、東京都が48署中48署で100%（昨年100%）、神奈川県が18署中18署で100%（昨年78%）、千葉県が14署中13署で93%（昨年86%）、山梨県が4署中4署で100%（昨年100%）となっています。一日税務署長は、一昨年から全国で実施されるようになりました。

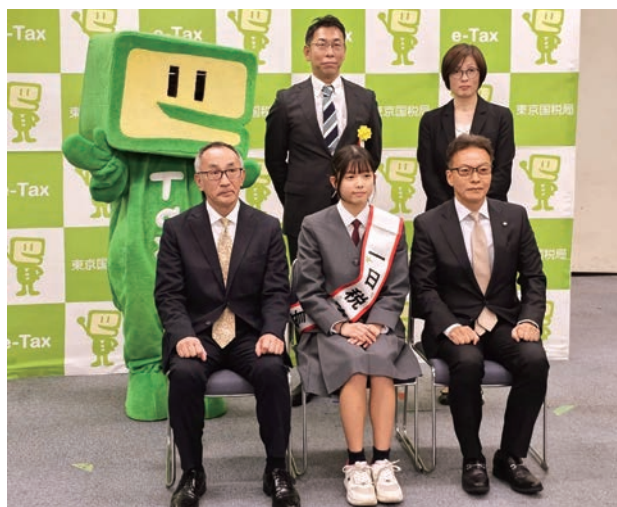
(2) 雪谷税務署での一日税務署長

令和7年12月4日雪谷税務署にて、一日税務署長が開催されました。

今年度の一日税務署長は、高田幸恵さん（大田区立雪谷中学校3年・全国納税貯蓄組合連合会会長賞を受賞）と吉戸彩夏さん（大田区立大森第十中学校3年・東京国税局長賞を受賞）と中村朋佳さん（大田区立大森第七中学校3年・東京国税局管内納税貯蓄組合連合会優秀賞を受賞）の3人が選任されました。当日は、高田さんと吉戸さんが出席し、幡野雪谷税務署長から委嘱状とタスキを、伊藤雪谷納税貯蓄組合連合会会長から記念品が授与された後、「名刺交換」や「署長訓示」などの署長業務を体験しました。



高田幸恵さん（所長室にて）



吉戸彩夏さん（セレモニー会場にて）

東京国税局管内納税貯蓄組合連合会 副会長（神奈川県連 会長） ■ 浦 上 裕 史



昨年来、日本を取り巻く環境が厳しくなっています。国家予算も増え、それに伴う国債の残高も増える一方です。例えばインフラの整備・教育改革・働き方改革・人口減少・最低賃金の上昇等枚挙にいとまがありません。結果インフレ傾向になるのは当然です。何をするにも原資たる税の果たす役割がより一層大きくなっています。

今年は何が公平で公正なのかを問われる時代ではないかと思います。全てが私達の生活に影響があります。お金を使う基準はバラマキあるいは、選択と集中なのでしょうか。

私達納税貯蓄組合は、従来より特に入りの部分（徴収）への協力をしています。

子供達から大人に至るまで皆様にご理解いただき「税金は納めていただくもの」への意識改革のお手伝いをしているのです。

昨年度よりのキャッチフレーズ「ハロータックス」の普及を含め、徴収の効率化となるデジタル納付を多方面からPRし、馬のごとくスピード感を持ちつつ、着実に応援する活動をしてゆきます。

東京国税局管内納税貯蓄組合連合会 副会長（千葉県総連 会長） ■ 高 橋 功



明けましておめでとうございます。

皆様には輝かしい新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

当総連合会に対しましては、平素より東京国税局管内納税貯蓄組合連合会の皆様、東京国税局をはじめとする各税務行政機関の皆様に大変お世話になっておりますこと心より感謝申し上げます。

令和8年は丙午。行動力に優れ積極的に物事に取り組むと良い、前進を象徴する年とも言われております。本年は納税貯蓄組合法施行75周年、東京国税局管内納税貯蓄組合連合会創立50周年を記念する行事・事業が予定されています。納税貯蓄組合の更なる発展の機会となることを願っております。

昨年、日本初の女性総理大臣が誕生し、高い支持率を得て大きく政治が動き出したように思われますが国内外では課題も多く、外交を含め経済面では見通しが難しい局面が続きそうです。一方、国の一般会計の税収は本年度も過去最高を更新する見込みです。特に消費税、所得税、法人税の伸びが税収増加の主な要因とされています。これら諸税の納税には利便性と滞納防止の観点からも「キャッシュレス納付」の利用は効率的で便利な納税方法の選択肢であると言えます。金融機関窓口での納税方法から振替納税、電子納税などのキャッシュレス納付の利用へと納税貯蓄組合はその利用拡大に向けた勧奨活動を本年も展開して参ります。

納税貯蓄組合活動は原点である「期限内完納」を達成するための活動、将来の日本を担う若者たちが税について関心を持ち、正しい税知識を深めることを願っての「中学生の『税についての作文』募集事業」活動など歴史のある活動にも皆様と共に一層力を注ぎたいと思います。今後も皆様のご指導ご鞭撻よろしくお願い申し上げます。

東京国税局管内納税貯蓄組合連合会 副会長（山梨県総連 名誉会長） ■ 新 津 尚



新年あけましておめでとうございます。

皆様におかれましては、健やかに新年をお迎えになったこととお慶び申し上げます。

昨年を振り返って見ますと、「夏（6～8月）は梅雨明けが記録的に早く、日本の平均気温は過去2年（2023年・2024年）を上回り、観測史上最高を記録する顕著な猛暑となりました。」と日本気象協会は発表していますが、山梨県においても最高気温35度以上の猛暑日が甲府市において59日続くなど記録を更新する酷暑でした。

さて、昨年6月には県連をはじめとする県下の4署連納税貯蓄組合が、県内の自治体や金融機関等で構成される「県下一斉納付書レス・キャッシュレス納付推進プロジェクト」に協力団体として参加しました。すでに各署連納税貯蓄組合では、独自の活動を山梨県及び税務署等と協力して活動を行ってきたところであります。今後も他の団体とも協働して、キャッシュレス納付の推進を引き続き強力に行っていく所存であります。

税務当局においても申告や納付の電子化をなお一層推進していることから、納税貯蓄組合連合会でも国税、地方税当局と連携し、その普及拡大に引き続き取り組んでいくことを新年にあたり心掛けるところであります。

結びに、本年も税務当局や関係団体の皆様のご協力を頂きながら、活動を推進していきますのでよろしくお願い申し上げます。

東京国税局管内納税貯蓄組合連合会 相談役（東総連 常任相談役） ■ 原 まり子



皆さまには、お健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

令和7年度も東京局連では様々な活動をしてまいりました。なかでも、「中学生の税についての作文」は、昭和42年に国税庁との共催で開始して以来、59回を重ねる事業です。長い歴史の中では、親子三代に亘り入賞されたご家族など、世代を繋ぐ架け橋にもなっている感がございます。

一方、近年のデジタル化という世界的な流れの中で、作文事業についてもAI（Artificial Intelligence）との関わりが注目されてまいりました。様々な世代で関心が高まっているAIですが、その歴史は思いのほか古く100年以上も遡るようです。最近では、若者の間では「チャッピー」という愛称で呼ばれている「チャットGTP」が新語・流行語大賞にノミネートされたりもしました。

国においては、文部科学省が推進するGIGAスクール構想の下で、小中学校から1人1台のタブレット（情報端末）と高速の通信ネットワークを整備し子供の可能性を引き出す教育に取り組んでいます。世界と伍して競い合える人材を育成する上では欠くことの出来ない能力だと考えるからでしょう。

私たちの事業である「中学生の税についての作文」でも、AIを活用した執筆をどう考えるかが話題になっています。社会科の一つの分野として扱われることも多い「税についての作文」ですが、従来は、その形式から手書きの文字を前提とした国語教育の一環という視点でも採点されてきたからです。

AIは業務の効率化などの面から話されることの多い技術です。他方、「文は人なり」とも言われるように、文章は人柄と不可分の領域でもあります。これからは、どこまでが「AIを活用した作品」で、どこからが「AIが作った作品」となるかについて様々な意見が出されることでしょう。

今年も、皆さまとの掛け替えのないご縁を大切に精一杯事業に取り組ませて頂きたいと思っております。

令和8年度 東京局連 主要事業日程（予定）

令和8年	4月	会計監査
	4月	東京局連創立50周年記念事業
	6月	定時総会
	8月	東京国税局長挨拶
	10月	東京国税局連絡協議会
	10月	中学生の税の作文審査
	11月	東京国税局長表彰式
令和9年	1月	東京局連会報第12号発行
	1月	東京国税局長新春の挨拶

東京国税局管内納税貯蓄組合連合会の運営委員

会 長 近藤 忠夫（東総連会長） 副会長 浦上 裕史（神奈川県連会長）
 副会長 高橋 功（千葉県総連会長） 副会長 新津 尚（山梨県総連名誉会長）
 相談役 原 まり子（東総連常任相談役） 監 事 丸 哲夫（東総連副会長）
 監 事 高橋 愛子（神奈川県連副会長） 監 事 遠藤 敏雄（千葉県総連監事）

東京局連会報（第11号）

発行日 令和8年1月1日
 発行者 東京国税局管内納税貯蓄組合連合会 会長 近藤忠夫
 本 部 〒101-0054 千代田区神田錦町1-12-1 アーク錦町ビルⅡ
 印 刷 (株)プリントン・コミュニケーションズ
 〒135-0016 江東区東陽5-29-15 ☎03-3615-1210
 表紙絵 「春の訪れ」辻 桃子（俳人・俳句結社「童子」創始者）